

# 『音楽教育実践ジャーナル』 vol. 14 (通巻第 27 号) の原稿募集について

2016 年度から『音楽教育実践ジャーナル』は実践の交流誌として生まれ変わります。取り組まれている実践、かかわっておられる実践について、特集投稿、自由投稿への原稿をぜひお寄せください。

【重要なお知らせ】・・

1. 特集投稿、自由投稿、いずれも、会員のみなさまの実践への取り組みをできるだけ多く掲載します。
2. 原稿の分量は、4 ページから 10 ページまで、内容に応じて各自で設定できます。
3. 実践報告、授業提案、実践についての討論、CD・DVD・楽譜・図書等実践にかかわる資料の紹介、実践紹介や調査の報告、教材・教具のアイデア等々、会員に発信したい内容を自由にお寄せください。
4. 特集テーマに即した内容の場合は指定の締め切り日までに「特集投稿」として、テーマにこだわらず投稿したい場合は「自由投稿」として随時投稿いただけます。
5. 『音楽教育実践ジャーナル』は年に 1 冊、12 月発行となります。
6. 「査読あり」を希望する場合には、リニューアルする『音楽教育学』にご投稿ください。
7. 『音楽教育実践ジャーナル』への「論文」(査読あり)の投稿受付は、2016 年 2 月 15 日をもって終了します。

## vol.14 (通巻第 27 号) の特集テーマ

### 特集 1 「ともにまなぶ — 一人一人のニーズに応える音楽教育実践」

「個別のニーズ」「特別なニーズ」というと、特別支援教育のことと捉えられがちですが、すべての子どもは一人一人ニーズをもっています。ですから、すべての先生が、それぞれの子どもの、一人一人のニーズを意識し、それに応えようとしているはず。こんな実践から、あの子どものニーズが見えてきた。この子のニーズを考えて実践してみたら、こんな音楽の授業ができる学級になった。こういう子どもには、どういった音楽的な働きかけができるかなと、学校全体で試行錯誤中です……。そんな、だれもが音楽をともにまなぶことを意識した実践を、原稿にまとめてお送りください。

### 特集 2 「ずっとまなぶ — 成人のための音楽教育実践」

P. ラングランの Éducation permanente (1965, 第三回成人教育推進国際委員会ワーキングペーパー) から 50 年が経ちました。成人になり、社会の様々な場で音楽とかかわる人たちがいます。市民合唱団やオーケストラ・吹奏楽団はもとより、大小さまざまな愛好団体が活発に活動しています。音楽教室の発表会は年齢層が厚くなり、「大人のため」を謳った楽譜も数多く、その楽器やジャンルはさまざまです。高齢者施設においても音楽は重要な活動となっています。「学び続ける社会」をつくる、という視点から考えたとき、音楽はどのような力をもっているのでしょうか。どんな条件が、ずっと音楽をまなぶことを可能にするのでしょうか。多様な学びの場からの発信をお待ちしています。

#### 【投稿時のお願い】

- ・投稿の際には封筒に「ジャーナル特集投稿」または「ジャーナル自由投稿」と朱書きし、下記送付先にご郵送ください。
- ・【別紙 1】投稿申込書と【別紙 2】投稿者用チェックリスト各 1 部 (学会ホームページよりダウンロードできます) を同封し、原稿 4 部をお送りください。
- ・書式、字数等は学会ホームページの『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定および「投稿の手引き」、テンプレートをご参照ください。図表、写真等も挿入スペースを文字数に換算して字数に含めます。
- ・原稿が届いたら事務局より受領通知をお送りしています。万一 10 日以上経っても通知がない場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。
- ・採否については、編集委員会から 2016 年 5 月末日までに投稿者へ連絡いたします。審議の結果によっては、修正をお願いする場合があります。

vol.14 (通巻第 27 号) へのご投稿は、特集投稿・自由投稿とも、  
〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 日本音楽教育学会事務局 [編集担当] 宛  
2016 年 3 月 15 日 (火) (必着) までにお願ひします。